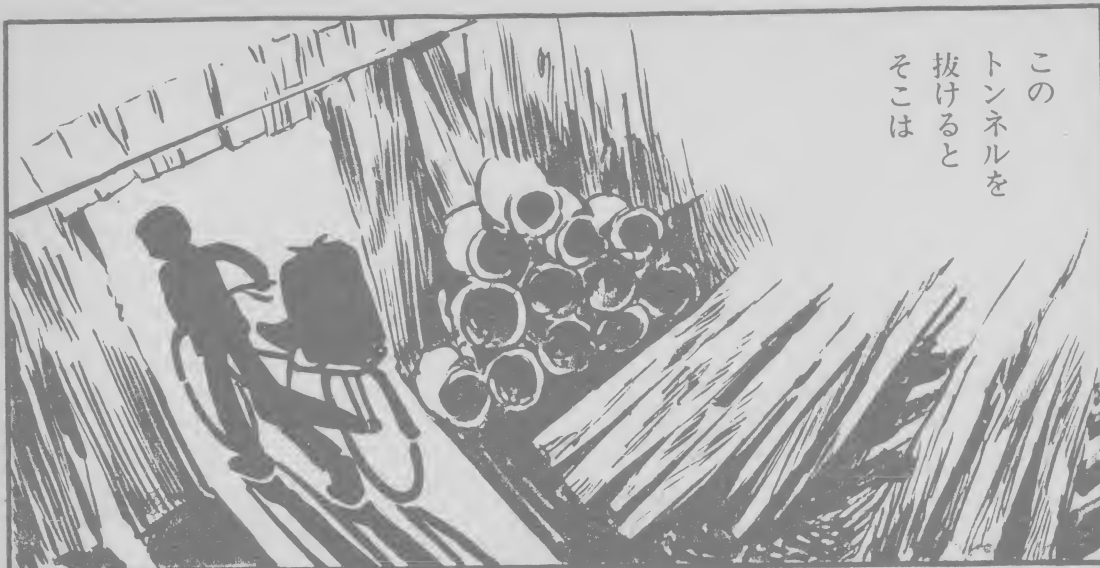
いつもの道
村野守美

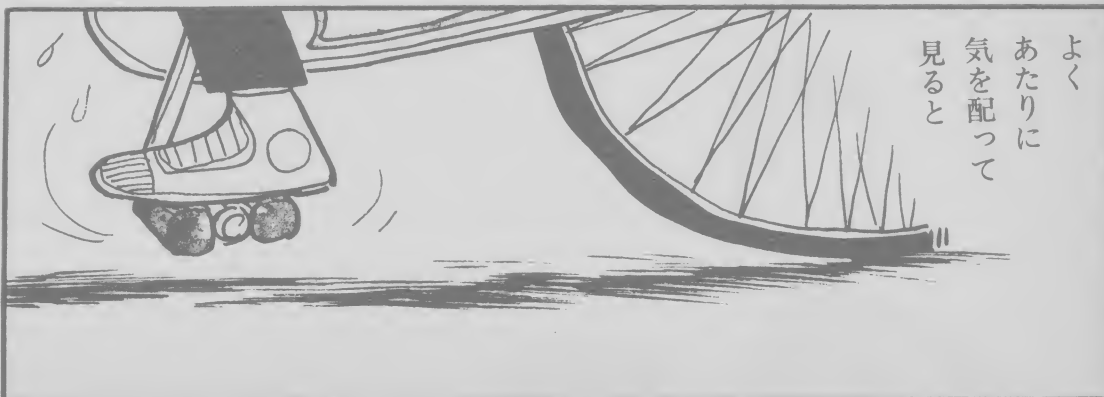
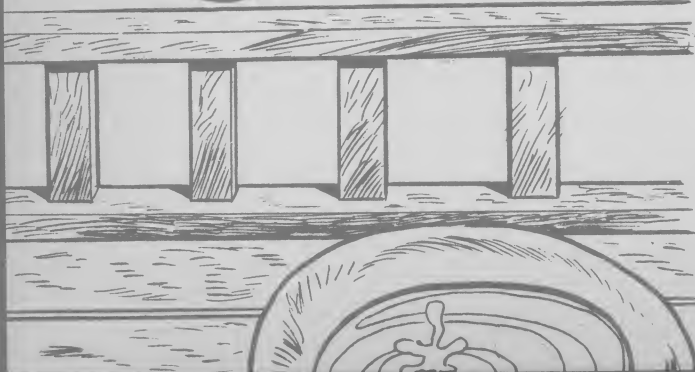
それは
まったく
時々
なのですが…
フッ…と
胸にこみ
あげて
くるのです

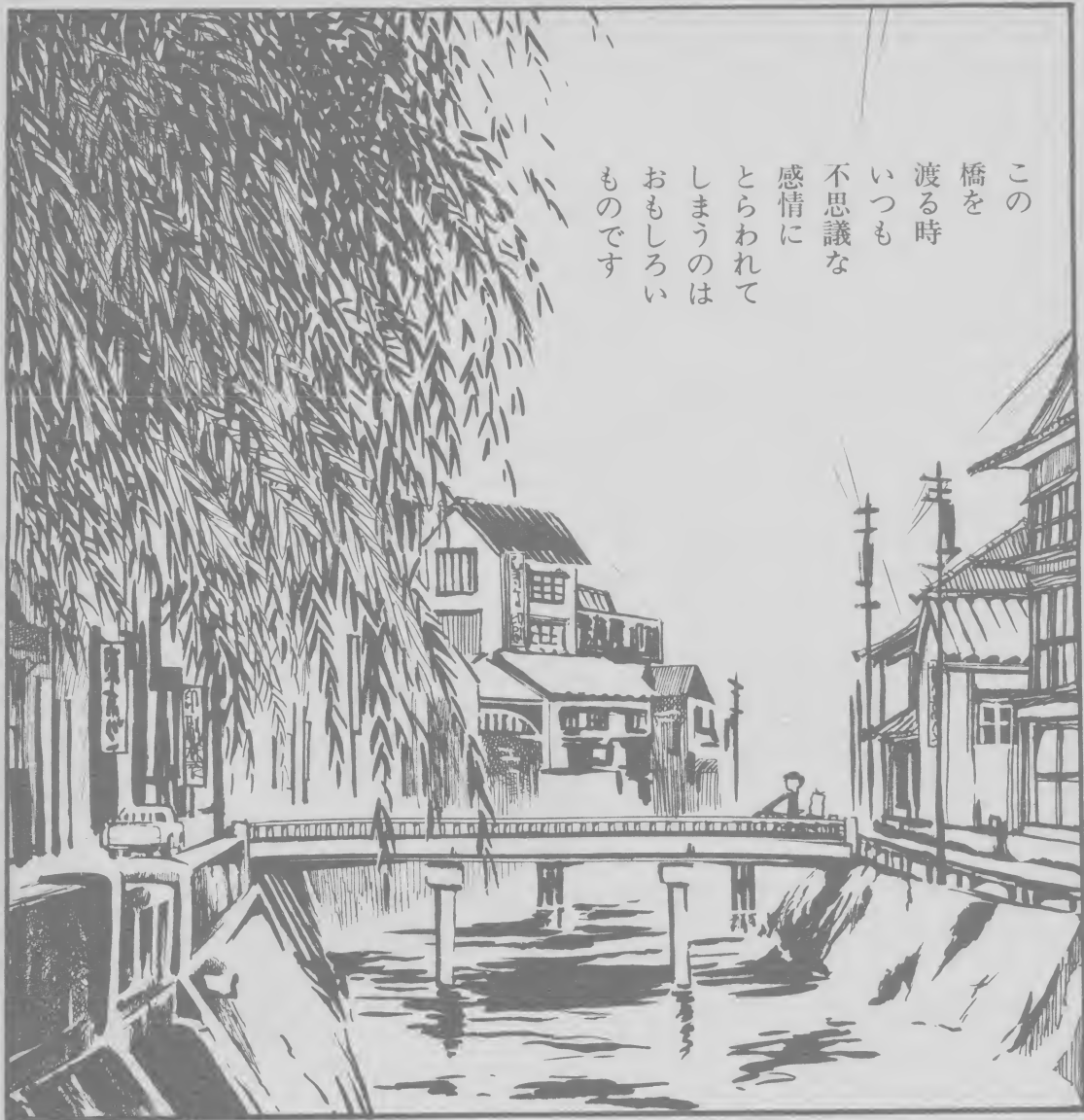
こよなく
この道や
街角などが
好きなんだなあ
……と………

このはいつくばった犬でさえひょっとするとそれほど嫌いではないのかもしれないなどと思ってしまうことがあるのです

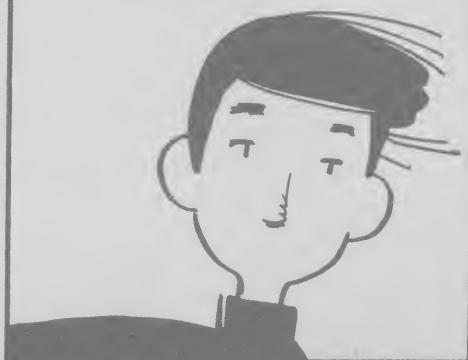
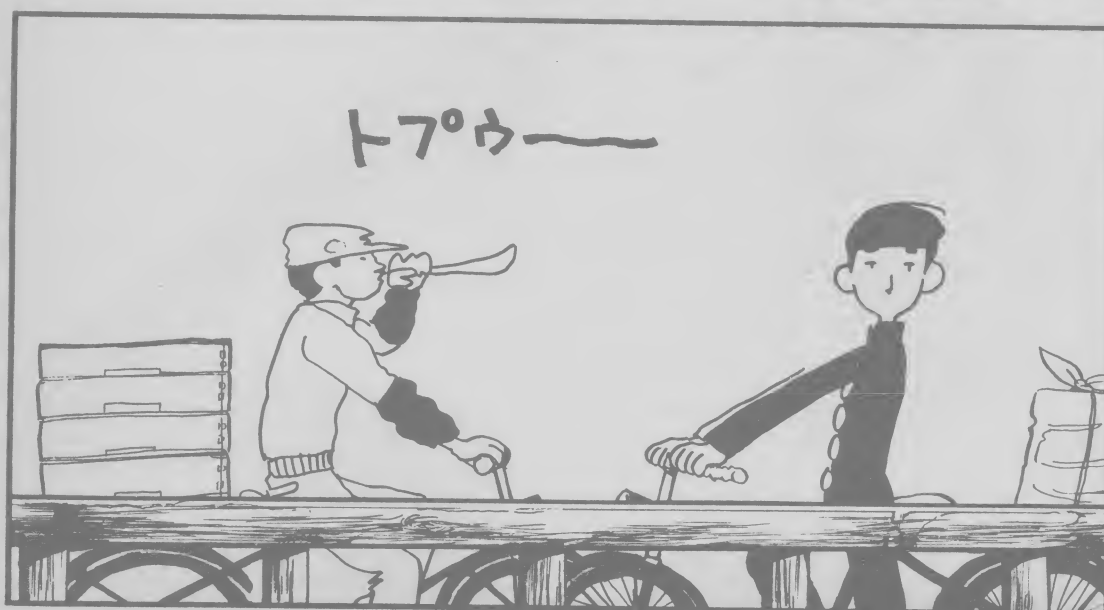
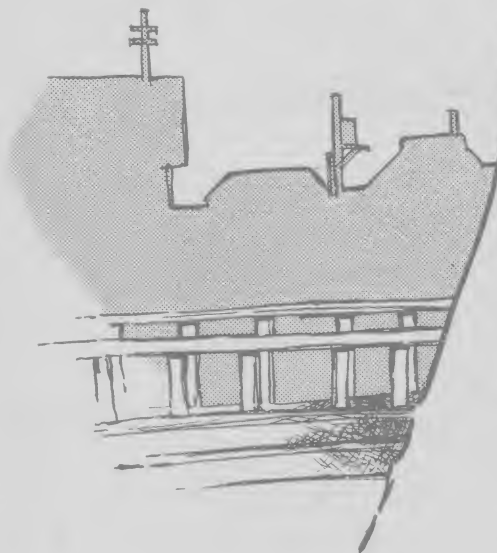
いつもの路地を近道して

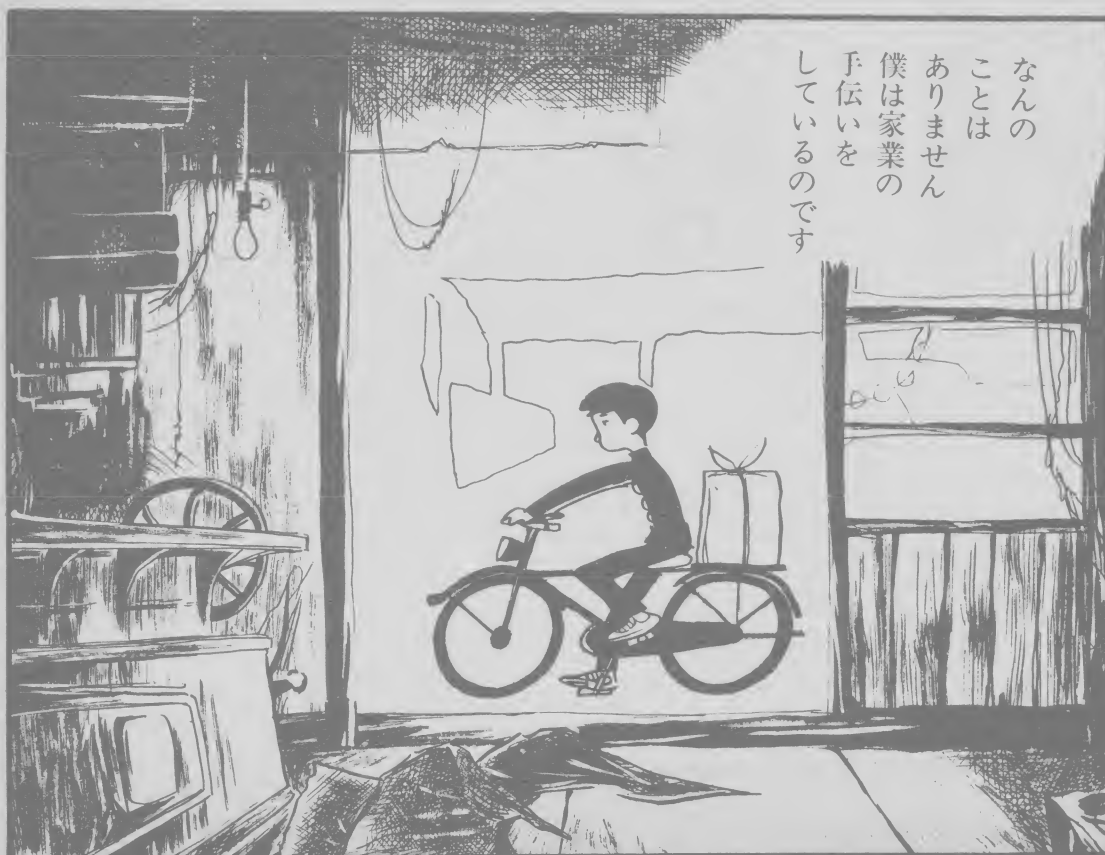
今日はめずらしくいねむりをしてないおばあさんの店を曲って
たばこ

やっぱりパキパキしたアスファルトの道なのです

毎日
この道を
通って帰るの
ですから
もう
かなり
見飽きても
いいと思うの
ですが

かなり
変化に
とんでいて
とても
飽きる
などと
いうことは
ありません
思わぬ
ところに
花が顔を
出していたり
すると

多少
己れは少女
趣味なのでは
ないかと
不安になる
ぐらい
ドキッと
心が動く
ものです
ざざざざあっ

この
橋を
渡る時
いつも
不思議な
感情に
とらわれて
しまうのは
おもしろい
ものです

頭の
テッペンに
ピカッと
光って
胸のあたりで
静かに
おさまる
ふるえ
みたいな
ものなのです

まだ
若干十数年
ぐらいの人生
なのですが

かつて己れを
うちのめした
うれしい様な
なつかしさの
感情と
いっていいで
しょう
さわわぁっ

なぜ
この橋が
それほど
なつかしいのか
見当も
つかないのです

ただ
この橋を
渡る時
そうなるの
ですから
仕方のないことです

さあ
そろそろ
この毎日の
仕事も
終わりに
近いのです

なんの
ことは
ありません
僕は家業の
手伝いを
しているのです

十五人ばかり女工を使っている工場に弁当を届けるだけなのです

旅館
キーッ
けっして
それほど
おもしろい
ことでは
ありません

夕星荘

来たわよ
——っ…

キャーッ
まった
まった…
ペコペコ

ほんとに
あんたは
無口ねえ
いつも

だめよ
かまっちゃあ
みなさい
紅くなった
わよお…
あ…
あの…
妙ちゃん
……?……

今日は
休み…
なのよ…
残念ねえ

女の休みよ
女の……
わかる…

ど、どうも

いつもの道　完

制作スタッフ　熊谷　聡・広中建次
斉藤輝彦・村野妙子